

# 22PO-am390

## 薬学共用試験 OSCE の結果解析 - 2018 -

○有田 悦子<sup>12</sup>, 岡村 昇<sup>13</sup>, 橋詰 勉<sup>14</sup>, 田村 豊<sup>15</sup>, 野田 幸裕<sup>16</sup>, 石田 志朗<sup>17</sup>, 入江 徹美<sup>18</sup>, 小澤 孝一郎<sup>19</sup>, 木内 祐二<sup>1.10</sup>, 向後 麻里<sup>1.11</sup>, 富岡 佳久<sup>1.12</sup>, 中嶋 幹郎<sup>1.13</sup>, 松下 良<sup>1.14</sup>, 松元 一明<sup>1.15</sup>, 吉富 博則<sup>15</sup>, 渡邊 真知子<sup>1.16</sup>, 木津 純子<sup>1</sup>, 伊藤 智夫<sup>12</sup>, 奥 直人<sup>1.16</sup> (1薬学共用試験セ, 2北里大薬, 3武庫川女大薬, 4京都薬大, 5福山大薬, 6名城大薬, 7徳島文理大薬, 8熊本大院薬, 9広島大院医歯薬保, 10昭和大医, 11昭和大薬, 12東北大院薬, 13長崎大院医歯薬, 14金沢大院医歯薬保, 15慶應大薬, 16帝京大薬)

【目的】第9回薬学共用試験OSCE(以下、薬学OSCE)は、平成29年12月から翌年3月に、全国74薬科大学・薬学部において本試験および追再試験が実施された。これまでの薬学OSCEの結果を総括する。

【方法】薬学OSCEでは、5領域から6課題が無作為に抽出され、平成29年9月に各大学に実施課題が通知された。合格基準は、課題ごとに細目評価で評価者2名の平均点が70%以上、概略評価(6段階評価)で評価者2名の合計点が5以上とした。評価の公平性や透明性を確保するために、評価者として外部評価者が参画し、薬学共用試験センターからモニター員が派遣された。適正な実施を目指し、平成29年4月にOSCE実施説明会、9月にモニター説明会を開催し情報を共有するとともに、課題見直し作業についての説明を加えた。

【結果・考察】本試験受験者総数は11,027名であった。各課題における得点分布は、細目評価の平均値が91.5~99.6%、概略評価の平均値が8.7~10.1(12点満点)の範囲内であり、課題ごとの難易度に大きな差はなかった。各課題を時間内に終了できた割合は、89.1~100%であり、ほとんどが時間内に終了していた。実施率の低い評価細目は、評価者間の不一致率が高い傾向が認められた。細目評価と概略評価には強い相関は認められず、両評価を独立して行う意義が認められた。次に、コアカリ改訂に伴う課題見直しの一環として、これまでのワークショップ等で議論された新規課題案のトライアルのデータおよびアンケート結果を解析し、平成30年度からの新規課題を選定した。